

## 公益財団法人日本バレーボール協会 2023 年度定時評議員会議事録概要

日 時：2023 年 6 月 15 日(木) 14：00～16：03

会 場：エステック情報ビル 会議室 B

### 決議事項

- 第 1 号議案 第 13 期（2022 年度）計算書類等の承認の件
- 第 2 号議案 理事選任の件

### 議事の経過の要領及びその結果

評議員会の開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じながら対面開催とした。

### 決議事項

#### (1) 第 13 期（2022 年度）計算書類等の承認の件

工藤監事より監査報告、安藤経営企画部長より決算の説明が以下のように行われ、賛否を諮ったところ、議長を含む賛成 22 名・反対 0 名にて承認可決された。

#### 【監査報告】

事業報告書は法人の状況を正しく示している。会計帳簿は公益法人会計基準に従い記載すべき事項を正しく記載している。計算書類は状況を正しく示している。

#### 【決算の概要説明】

JVA はどのような大会を開催するかにより収支の規模が大きく変わるため、前年との比較はあまり意味がないためここでは予算と決算を比較することで説明する。

#### 「経常収益計」

24 億 5,700 万円となり、予算より 4 億 8,200 万円増加。予算比では 1.24 倍。昨年も 20 億円のため、5 億円ほど増加している。こちらは収入のタイプにより科目を分けて記載している。

#### 「経常費用計」

22 億 8,800 万円と予算より 3,100 万円ほどの微増だが、全体で見ればほぼ予算どおり。こちらは科目というよりも、部署ごとの予算と決算の対比で見ている。

### ■収入の概要

最も大きいものは入場料収益。1 億 5,000 万円ほど予算を上回り、予算比 1.6 倍。増えた要因は VNL 男子（6,500 万円）、男女親善試合（5,400 万円）の上振れ。今年の場合はこの中に 2 つの要素がある。ひとつは、「予算策定の際に、完全にコロナが解消されないかもしれない前提

で立てたこと」。入場制限の可能性など色々なことを考えて予算を立てたため、少し収入予算が少なくなっている。ただ、結果的に制約がなくなり開催できたために差異が出たことが第一点。もう一つは「コロナに関係なく予想よりも集客ができたこと」。男子人気が高かったこと、特に沖縄での親善試合では物販の商品がなくなるほどの盛況だったことに見られるように、予想以上の集客があったことが第2点。

また協賛金も伸びていて、予算比105%。率でいうと大きくないように見えるが、金額としては5,800万円ほどの上振れとなっている。予定していた協賛は全ていただけて、かつ新規協賛が3,300万円、世界バレーの協賛が2,700万円ほどいただけた。

物品販売も、VNL男子をはじめとする人気により予算より上振れた。

その他事業収益について1億円の上振れがあるが、ほとんどは賞金。賞金は増えてもほとんどが選手、スタッフに配分されるため、同様に費用が増えている。カプコンアワードで2,000万円いただけることになったが、その分も費用も同時に増えている。

受取補助金、交付金等についても前年並みの決算ではあるが、予算比で1億円伸びている。予算策定段階では、東京五輪でのバレーボール女子チームの成績が振るわなかったこと、オリンピックムーブメントが終わって補助金全体が縮小される懸念があったこと、ビーチ不祥事の影響が出ると思われていたことから減収を想定していたが、幸いにも前年並みに助成いただけた。

雑収入は増加のうち1,000万円が円安による為替差益。その他にギフト収入が予想よりも伸びた。

## ■支出の概要

全体で見ればほぼ予算通りではあるが、個々で見ればばらつきがあり、今後検討が必要。

国内大会は予算よりも4,700万円増えている。ここも先ほどと同様に2要素あり、コロナ禍で様子見の予算立てであったこと。実際は制限なく開催できたことで、人が多く来場することで会場費や警備費など運営費の増加がみられた。またカプコンアワードの賞金が国内大会で使われたため、その分も増加の要因。

マーケティングの8,100万円未達は、ブランディング費用として2億円ほどの予算を立てていたが、ブランディングは数年がかりの事業のため、まだ未達の部分がある。本来は各年度に割り振って予算を立てるべきであったが、わかりやすさを優先して単年度の予算に加えたため、まだ使っていない費用については23年度予算に含めて運用している。

広報の2,500万円マイナスも、予算時に計上したJVAサイトリニューアルの費用に未使用分があるため。事業年度を越えて動いているものがあるため、その分がマイナスとなっている。事務局のところは4,200万円増えているが、消費税が5,000万円ほど増加したことの影響。予算よりも収入が増えており、その主な内容が協賛金と入場料。ともに消費税がかかるため、結果的に費用も増えている。

評価損益として2,000万円増加している点については、現在保有している社債の時価評価を

したところで益が出たもの。ただしこの部分は実際に売ったわけではないため会計理論上の数字。いずれは満期になって100%で戻ってくることを考えれば、どこかでこの2,000万円が評価損として出てくる。評価損益のところプラスマイナスが出てくるが、結果的には収支に影響しない。

税金控除後、最終的には1億8,600万円の黒字となった。予算は2億8,100万円の赤字だったため、4億6,700万円の上振れという結果となった。

正味財産の合計は、前期末20億6,500万円だったものが、2億円ほど増加して22億5,200万円となった。

正味財産増減の状況と推移については、2016年度から右肩上がりに増えて、22億5,000万円ほどとなっている。2015年度頃、正味財産が10億円を切ると運営に支障をきたすということで危険視していたが、男子人気やオリンピックムーブメント、コロナ禍による支出抑制もあり、当面は運営に問題ない水準となっている。

※なお、第13期（2022年度）決算報告につきましては、JVA ホームページに掲載いたしましたので、ご参照願います。[2022-2023financial\\_statements \(jva.or.jp\)](http://jva.or.jp/2022-2023financial_statements)

## (2) 理事選任の件

理事船員の件について、これまでの候補者決定にかかわる経緯説明があり、審議および投票の結果、以下の通りとなった。

### 【理事に選任された19名】

松下敬、村上成司、灰西克博、小縣徹男、奥村祐年、金川裕一、鬼頭有紀子、國分裕之、小柴滋、坂本友理、須藤実和、田野敏彦、原田宗彦、丸山由美、石塚茂樹（新任）、鈴木国正（新任）、内藤拓也（新任）、永田亮子（新任）、矢島久徳（新任）

※理事の任期は2023年6月15日～2025年6月開催の定時評議員会の終結の時までとなる。

### 【理事選任の経緯について】

本日の定時評議員会終結の時をもって、現行理事18名の任期が満了となる。2023年度の理事改選については、2022年10月に役員選定規程を改定し、プロセスをこれまでから大幅に変更した。新規程では会長と理事の選定プロセスを分けて行い、まずは会長候補者としての理事1名を選任することとなり、2月7日の臨時評議員会でご承認いただいたとおり、川合俊一氏が次期会長内定者として、既に理事に選任されている。理事候補者選定委員会での審議の経過等については4月の評議員懇談会で松下副会長よりご説明いただいているため、本日は割愛する。

会長候補者/理事候補者選定委員を務めた山本議長より以下のように補足が行われた。

いまお話にあったように、4月の評議員懇談会にて理事候補者選定委員会の経緯説明を行い、5月8日に理事選任に関するすべての資料が皆さまのお手元に届いている。その後皆さまからのご意見、ご質問をお受けしたところ、1件意見書の提出があった。予め資料としてお示ししているとおおり、内容としては選定委員会の女性比率に関する考え方についてのご意見。既に資料としてお配りしているためご承知いただいているかと思う。

意見書についての議論の要否が確認され、改めての議論の必要はないことの確認がとられた。また、同席している執行部への質問等の有無が確認され、質問等がないことの確認がとられた。

続いて、決議方法の確認が行われ、記名式投票とすることを決定した。

その後、評議員だけの審議が行われ、投票の結果、理事会から推薦された19名の理事候補者全員が承認可決された。

2月に選任されている川合俊一氏を含め、理事は20名。翌日16日に臨時理事会が開催され、会長等の担務が決定されるため、決まり次第評議員への情報共有もお願いしたい。

## 報告事項

### (1) 第13期(2022年度)事業報告の件

村上事務局長から資料を基に以下のように報告が行われた。

**公益財団法人 日本バレーボール協会**  
**第13期・2022年度事業報告**  
**(2022年4月1日～2023年3月31日)**

今年度はコロナ禍の収束が見え始め、with コロナの中で人数制限などを緩和、解除しながら通年の事業を行えるように取り組んだ1年だった。その中で2021年度末に就任した川合会長のもと、バレーボールへの信頼回復が試される1年となったが、国際大会や各日本代表紅白試合などの取り組みにおいて「バレーボールを通して日本を元気にする」ことを合言葉に、国内競技会や各種事業においてもバレーボールの安全安心な競技環境の維持に努め、多くの方々の支援や協力を受けて活動を行った。

#### (1) 今年のトピックス

- ① FIVB バレーボールネーションズリーグ 2022 のファイナルラウンドは、男子がイタリア、女子はトルコで開催され、初のファイナル進出を果たした男子日本代表チー

ムは5位。女子日本代表チームは7位で終了した。

- ② 2022 男子世界選手権において男子日本代表チームが決勝ラウンドに進出し、激闘の末フランスに敗れベスト16で終了。女子日本代表チームは、第3次ラウンド準々決勝に進出し5位で大会を終了した。
- ③ 8月にAVCカップが男子（台湾）、女子（フィリピン）で開催され、男子は2位、女子は優勝を果たした。
- ④ 6月にイタリアのローマで開催されたFIVBビーチバレーボール世界選手権大会は、石井美樹・溝江明香ペアが17位となった。
- ⑤ 大阪府バレーボール協会の資金着服の問題から、適正な経理処理を行うことと財務報告の正確性を確保するために、加盟団体法人化への取り組みが始まった。
- ⑥ 昨今のスポーツ指導の在り方を見つめ直し、指導現場から暴力を完全に撤廃することを目的として、「暴力撤廃アクション」を開始した。
- ⑦ 「JAPANバレーボール宣言」とクレド（行動規範）「JAPANバレーボールWAY」を制定した。

## （2）決算について

コロナ収束をにらみながら、パリオリンピックをめざして通常の活動に戻る中で協賛金の増加もあり、補正予算を組んだ。VNL等の国際大会の入場料、補助金が予算よりも大幅に伸びた結果、4年続けての黒字決算となった。

収入は、補正予算1,975百万円から482百万円増の2,457百万円となり、支出は補正予算2,257百万円から31百万円増の2,288百万円となった。税引き後の最終利益は186百万円となった。

※第13期（2022年度）事業報告につきましては、JVAホームページに掲載いたしましたので、ご参照願います。[2022-2023workreport \(jva.or.jp\)](https://www.jva.or.jp/2022-2023workreport)

## （2）評議員懇談会の位置づけについて

村上事務局長から以下のように報告が行われた。

評議員議長より川合会長宛にいただいた「評議員懇談会の公的な位置づけについて」の内容について、理事会としての回答をお示ししている。評議員運営規程に加えて運用したいとの

内容をいただき、理事会で協議をした。結果としては、慎重に検討を重ねたが、今回は規程改定については決議を保留とさせていただいた。その際に出された意見としては既に皆さまに資料としてお配りしているが、今回のご提案内容だけでは意図を十分にくみ取れないとのことだった。議長からより意図をご確認いただき、検討していきたい。

山本議長：既に資料でお示ししているとおり、4月21日の評議員懇談会で、評議員会としての意思決定を行い、理事会に申し入れをしたもの。5月25日理事会で議論いただいたものの、結論に至らなかったとのこと。山ノ川評議員からもご意見いただいております、資料にもあるように、議長と事務局長とで論点整理を行い、より良い形を目指していきたい。

### (3) 今後の会議スケジュールについて

村上事務局長から以下のように報告が行われた。

いま議論いただいた懇談会のことについては引き続き検討するものの、定時評議員会だけこの場で提案させていただきたい。

次回 定時評議員会の日程

■2024年6月14日(金)14:00～16:00

また明日の理事会で重要な案件を審議する予定となっており、本年8月下旬に臨時評議員会を開催させていただく可能性があることもお含みおきいただきたい。開催有無は早めにお知らせする。

### (4) 理事の任期満了について

山本議長から本日の定時評議員会終結をもって、現任の理事18名の任期満了となる旨が説明された。

#### ■退任理事 3名

2023年6月15日の定時評議員会の終結の時をもって任期満了

河本宏子、益子直美、山口香

#### ■次期理事 20名（重任15名・新任5名）

2023年6月15日の定時評議員会の終結後～2025年6月開催の定時評議員会の終結の時までを任期とする。

石塚茂樹（新）、小縣 徹男、奥村祐年、金川裕一、川合俊一、鬼頭有紀子、國分裕之、小柴滋、坂本友理、鈴木国正（新）、須藤実和、田野敏彦、内藤拓也（新）、永田亮子（新）、灰西克博、原田宗彦、松下敬、丸山由美、村上成司、矢島久徳（新）

## ○その他

### (1) 報酬等検討委員会について

村上事務局長から以下のように報告が行われた。

正式には明日の臨時理事会で議決することであるが、バレーボール界全体の報酬や手当、先ほど黒田評議員からのご指摘にもあったように都道府県協会の皆さまの手当なども含めて全体を検討しなければならないと考えている。そのために「報酬等検討委員会」を立ち上げて検討していくことを明日の理事会に提案する。

例えば代表選手や協会・委員会関係の皆さま、ボランティアで大会に従事いただく皆さまへの手当、宿泊費高騰を受けた規程見直し、役員報酬の水準見直しなど、総合的にバレーボール界の報酬、手当等を議論する場を立ち上げたい。大きな議題ではあるが、早期に着手して検討、見直しを進めていきたい。評議員からもお二人参画いただきたい案となっているため、可能であれば委員候補者をご検討いただきたい。ご推薦いただけるようであれば、明日の理事会で委員会立ち上げとなった際に、メンバーとしてお示ししたい。

山本議長：報酬等を検討する組織体を立ち上げるために、明日の理事会で議論されるということだった。明日にメンバー含めて決定するとなると、この場で人選をしないと間に合わない。自身から推薦させていただいてもよいか。

評議員の異議なしを確認し、山本評議員会議長より他競技で競技団体運営に知見のある尾縣評議員、会社経営の知見をお持ちの堀田評議員が推薦された。本人の承諾及び他評議員の異議がないことが確認され、評議員会から推薦する委員は尾縣評議員と堀田評議員で決定した。

以上をもって、議長は16:03に閉会を宣した。